



▲福岡県立美術館

第102回二科福岡巡回展

会期：2018年3月20日（火）～3月25日（日）

会場：福岡県立美術館（1階・3階）

展示点数：330点

入場者数：3,556人

参加支部：二科福岡支部・二科山口支部・二科大分支部
二科佐賀支部・二科長崎支部

3月19日の前夜祭は絵画部 中原史雄理事をお迎えし、共同主催である西日本新聞社・テレビ西日本の方々、元田川市美術館長で二科西人社展外部審査員の松尾孝司氏、県立美術館副館長 西本匡伸氏をはじめ、多くの出品者の方々に御出席いただき、親睦と交流を深めました。当巡回展のみの西日本新聞社賞を選考しこの前夜祭で表彰を行っていますが、今回絵画部は大西正昭（福岡市）、白井偉之（北九州市）、吉田大介（諫早市）デザイン部は、岡野千晴（うきは市）写真部は、増田俊次（春日市）の5氏が選出されました。

今回も、多くの関連事業を開催しました。大好評につき昨年に引き続き京都造形芸術大学名誉教授である中原史雄理事を講師にお迎えし、「自分らしい作品づくり支援講座Part2 一色と形」と題し3月20日13時30分より講演会を開催しましたが、演習・実演を交えた熱心なご指導に会場は約70名の熱心な受講者で熱気に包まれました。

例年開催のギャラリートーク（3/20）は、絵画部の中原史雄理事のトークを筆頭に地元出品者による“自作を語る”ギャラリートークを毎日開催、作者の想いが溢れ出て熱が入るし、参加者の皆さんからも貴重なご意見を伺うことができました。

入場者へのプレゼント抽選会では出品作家の色紙プラス協賛者からご提供いただいた豪華フェリーでの旅行、リゾートホテルの宿泊券等をプレゼントしました。

広報活動の充実、3回つづけての講演会実施等、少しずつ努力が実りはじめたのか、入場者数が増えました。会場内に活気が出てきたように感じます。出品者の皆さんの協力により、暖かでふれあいのある巡回展となりました。



▲前夜祭



▲絵画部ギャラリートーク



▲講演会

○4部門会場展示に関するコラム記事

《絵画部》

会場の制約により、巡回作品を58点にしぼって展示しました。天井の高い1階に大きな作品と彫刻を並べ、3階の入口から絵画→デザイン→写真→絵画と途中でデザイン・写真をはさみ変化を持たせました。見やすく解りやすい展示を心掛けました。

《彫刻部》

1階の彫刻展示室は柔らかな自然光が入り、天井が高いので、大変見やすいのが特徴です。時刻によって光線が微妙に変化し、そこもまた楽しめる展示となりました。

《デザイン部》

展示数は75点。前回同様展示コースは変わらず、絵画部からの鑑賞移動がデザイン部、写真部へと今回もスムーズに流れ、デザインへの関心も広がったように思います。展示内容は受賞作を主体にまとめましたが、地元一般出品者が少なく残念でした。目玉の二科賞がなかったが一般出品者から大賞が3本という快挙が話題になりました。

《写真部》

展示会場は、今年も福岡県立美術館で行われスペースが狭く120点の展示となりました。地元作品を中心に(会員、会友、一般入選作品)+入賞作品を展示いたしました。初日と最終日には徳永美奈子理事をはじめ会員によるギャラリートークを行い、多くの写真ファンで賑わいました。¥600の入場券にしては展示点数が少ないねという声が多数聞かれました。



▲絵画部会場



▲彫刻部会場



▲デザイン部会場



▲写真部会場